

## 「知る」を「知る」～*knowledge is power to save the world*～

所属	愛知県私立愛知高等学校	実践者	木村 智子
対象	中学3年生以上～一般	時間数	3時間(90分×3)
場所	教室	実践教科	土曜講座(国際理解講座)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が「地球人」であることに気が付き、参加型の活動を通し、新しい自分や他者との共通点、相違点を認める。【コミュニケーション】</li> <li>・世界に目を向けつつ自分の環境を振り返り、これからの自分の起す行動が世界を変える可能性に気付く。</li> <li>・すべての「学び」が「よりよい未来」に繋がるところを知る。【教育】</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルイシューの提示/参加型への心構えとお願い4C</li> <li>①6か国語で自己紹介(いきなり難民体験)※スライドあり (アムハラ語(エチオピアの公用語)→スペイン語→韓国語→中国語→英語→日本語)</li> <li>・グループで感情の共有 英語って何だろう?</li> <li>・世界共通語の理解≠国際理解</li> <li>②国際理解って何だろう? 国って何だろう? [グループ] ⇨色んな人が居る集団</li> <li>③自己理解、他者理解を深める(アイスブレイク2つ)</li> <li>④「幸せ」とは?(自分にとって/皆にとって/その繋がり)【派生図】【回す】</li> <li>⑤ビデオの視聴「飢える国、飽食の国」</li> <li>⑥国名カード・繋がりカード・影響力カードで「繋がり」について考える(GW)</li> <li>⑦感想記入</li> </ul>	4C communication collaboration critical thinking contribution  ・スライド、模造紙、 マジック 高校生のアンケートとエチオ ピアでのアンケートのスライド ・国名/繋がり/影響力カード
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己理解、他者理解を深める(アイスブレイク2つ)</li> <li>②好きなおでんの具はどこから来てる?(生産国や自給率を知る)</li> <li>③前回の影響力カードの振り返り</li> <li>④「より良いつながり」について考える</li> <li>⑤エチオピアについて(どんなイメージ?【ポスター】 →[クイズ]やスライドで[フラッシュカード])</li> <li>⑥感想記入</li> </ul>	・スライド  ・エチオピアクイズ ・現地での写真/音楽
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バースデーライン(ナンバー)でグルーピング→アイスブレイク</li> <li>②エチオピアについて考える※スライドの鑑賞 (共通点・相違点→相違点の原因)【対比表】</li> <li>③「あってはならない違い」に気が付く</li> <li>④あなたならどうする?(GW) (日本では? エチオピアでは?) ②③④ に共通していること=「知る」機会の欠如 に気が付く</li> <li>⑤「夢」について考える (自分の夢、そもそも夢って?)</li> <li>⑥パラグアイについて考える ※英文での状況シートを理解し、自分の役割(A/B)で問題の解決法を考える【個人】-[グループ]</li> <li>⑦実際にその町のとった行動を紹介する(クイズ)→映像</li> <li>⑧感想記入・これから世界に飛び出すみんなへのお願い</li> </ul>	・現地での写真  ・スライド  ・英文(高1レベル)と写真 ・映像 landhill harmony in Paraguay
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の映像や写真のおかげで生徒(一般の方も)は世界を身近に感じ、自分のことを振り返る機会となっていたようだ。アクティビティに参加する意義を確認してから行ったので、初めての取り組みにも積極的に取り組み、異年齢から刺激を受けあっているようであった。当然のように受ける「教育」の素晴らしさを改めて気が付いた生徒が多かった。色々な教科での学びが線となって繋がった感覚を持つ生徒もいた。</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取れる時間が少なく、じっくりと考えてほしい課題なのに時間に追われてしまった。毎時間の受講者が違うので、なかなか深まった感じが得られなかった。特に2回目はエチオピア紹介で終わってしまった。PC がフリーズしてしまうと時間が止まってしまうので、繋ぎのものを準備しておく方がよかった。</li> </ul>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニングやスライドショーや感想の記入時はエチオピアソングをバックミュージックで流した。</li> <li>・一番小さい子は年中さんから年配の方は還暦越えの方まで参加者の幅があった。</li> </ul>		

## [授業実践の詳細]

### 1 時限目「地球人としてより良い繋がりを築こう」

#### この時限のねらい

- ・世界には様々な解決せねばならない問題があること、自分が地球に住む一人であること、一人一人が繋がっていることに気が付く
- ・自己理解→他者理解→異文化理解→国際理解に繋がることを理解し、自分や家族や友達を大切に思えるようになることが、世界平和へと繋がることを理解する。
- ・遠く離れたところに住む人の「幸せ」も自分の「幸せ」と同じように考えることができる。
- ・より良い繋がりを築くために自分にできる一歩を考える。

### 1 児童生徒の活動の流れ

- ① 一般の方もクラスも性別もバラバラになるように声をかけてグループごとに偏りがないように着席する。

(※以後、一般の参加者(年中からご年配の方まで)も含むが表記を「生徒」と統一する)

- ① グローバル 이슈のスライドを見ながら、大まかに世界で起きている問題を知る。

- ② 参加型の活動の心構え4Cを理解する。

4C: communication(コミュニケーション能力), collaboration(協力、協同力),  
critical thinking(多面的思考力), contribution(貢献力) ← 一番日本人が頑張らないといけない、  
現在国際社会で求められている力

- ③ ・いきなり難民体験をする。スライドを使いながら教師の自己紹介を6か国語で聞く。

アムハラ語(エチオピアの公用語)→スペイン語 →韓国語 →中国語 →英語 →日本語)

一番遠い言語 ←—————→ 一番近い言語(母語)

- ・グループで感情の共有をする。

a) 全然知らない言葉で囲まれたらどんな気持ちになるだろう？

b) 日本語が聞こえてきた時の感情はどうだったかな？

c) ただ、英語(世界共通語)が良くできる≠国際理解ができる ということを知る

- ④ 国際社会、国際理解って何？ 「国」について考える。「国」って何だろう？ 国境って何だろう？

- ⑤ アイスブレイキング【GW】

- a) 自分について考える 「自分の一番いいところ」、  
「自分の直した方がいいところ」、  
「自分をモノで例えるなら？ その理由も」

- b) 身近な人に思いを寄せる 「昨日の夕ご飯は？」  
「おむすびの好きな具は？」  
「昨日の10時何してたのかな？」

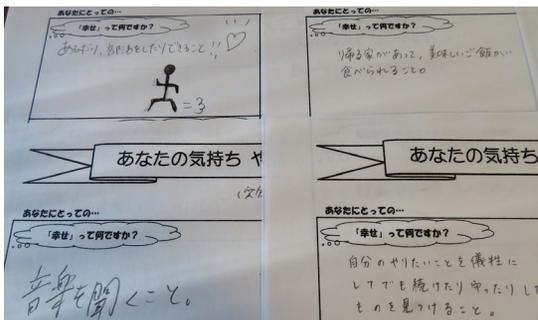
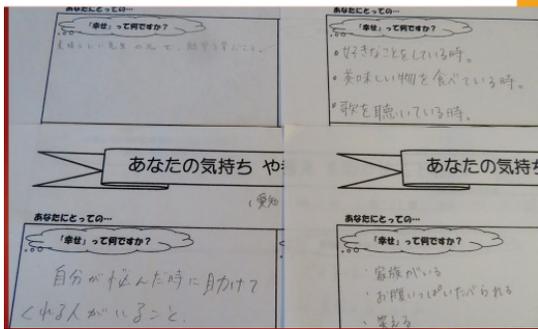
- ⑥ ④⑤を通して自己理解→身近な人の理解→その社会・文化の理解→国際理解 を理解する

⑤b) で勝手に自分のことを決めつけられても、きちんとしたコミュニケーションをとれば誤解や勘違いは訂正できることを知る。正しく情報を伝えることが、問題を大きくさせないポイントであることも理解する。

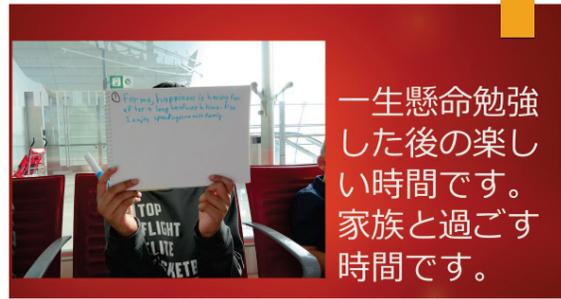
- ⑦ 今の生活を振り返って…皆さん、幸せですか？ 自分の幸せって何だろう？ 10個書き出す。

3つ使ってグループで発表。事前にアンケートをしておいたもの(高校生編とエチオピアで出会った人々編)をスライドで見る。

- ⑧ そこから見えてくる、「みんなの幸せ」を一つ選び、それを核としてその「幸せ」に繋がるものを派生図で書いていく。【派生図・GW】



<左:愛知高校生のアンケートの一部>



※なぜ、少年は顔を隠しているのだろうか？→イスラム教徒であることを想像できるかな？イスラム教徒って？宗教って？



<右:研修で出会った人々のアンケートの一部>

- ⑧ そこから見えてくる、「みんなの幸せ」を一つ選び、それを核としてその「幸せ」に繋がるものを派生図で書いていく。【派生図・GW】
- ⑨ 派生図を描いてみて、気付いたことをグループでシェアする。
- ⑩ 派生図内の「人」に関わるところを○、「モノ」に関わるところを□で囲む。
- ⑪ 他のグループの「幸せの繋がり」も見てみる。

**コラム的に** 人が生きていくうえで欠かせないもの=食べ物

愛知高校(曹洞宗)は必ず、お昼の食事の前には食事訓をお唱えします。一般の方々もいらっしゃいましたし、せっかくなので愛知高校生全員が、起立し合掌&食事訓を披露してもらいました。

**Key word: 食べるもの**

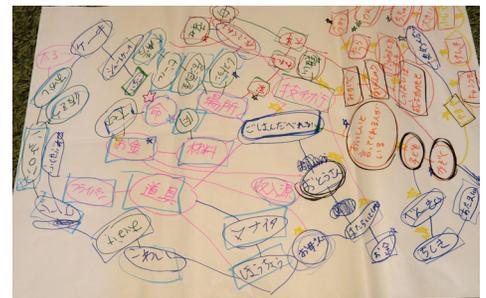
愛知高校 食事訓 がある！

- ▶一つには功の多少を計り、徳の宗処を置く。
- ▶二つには己が徳行の全欠を付けて、供に必ず。
- ▶三つには心を防ぎ、過を離るることは、貪等を宗とす。
- ▶四つには正に良薬を事とするは、形枯を療ぜんがためなり。
- ▶五つには成道のための故に、今この食を受く。

- ⑫ ビデオの視聴「飢える国、飽食の国」を通し、「つながり」について考える。飽食の国と飢える国の原因や歴史について学ぶ。負の連鎖に気が付く。
- ⑬ カードを使って各国との繋がりを可視化する。
  - a) 10 か国の国名カードと繋がりカードをグループで協力してマッチングさせる。
  - b) 影響カードも配り、繋がりからさらにマッチングさせていく。
  - c) 教師からの答え合わせで、良いつながりと良くないつながりがあることを知る。
  - d) 良くない繋がりの中に、先進国で生きる自分が知らず知らずに、問題の一端を担ってしまっていることに気が付く。→今後、どういう行動がより良い関係作りに繋がるのだろうか？
- ⑭ 自分の幸せは誰かと繋がって成り立っていることに気が付き、さらにそれが良いつながりでなければ、持続可能な「幸せ」は訪れないことを知る。
- ⑮ みんなの幸せのために、今の自分にできそうな一歩が何かを考える。

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 一般の方と共に、いきなりの多言語の環境に入り、緊張で顔がこわばり、非常に静かな様子であった。
  - a) どんな気持ち?」と聞かれても、「??」の表情であったが、「不安や恐怖」という言葉に大きくうなずき、b)で「日本語＝安心や嬉しい」という表現にほほ笑む姿があった。c)で英語は実はみんなの中では非常に身近な言葉であること、そして何より受験勉強だけのためではなく、世界中でたくさん困っている人を助けられる力のある言葉であることを話すと、英語への関わり方も変わり、また違った引き締まった表情となった。
- ◇ 自分の幸せが単独では成り立たず、必ずどこかの誰かにお世話になっていることに気が付くことが出来た。  
目に見えない繋がりが、遠い国々まで続いていき、今の自分たちの生活があることを知り、開発途上国に住む人々の願う幸せもまた自分たちとほとんど変わらないことにも気が付いた。  
みんなの願う「幸せ」が持続可能である世の中であるためにはどうしたらよいのか、を自分の言葉でまとめることが出来た。
- ◇ 「飢える国、飽食の国」の現状や、その原因が人工的に招いたものであることを知り、心を痛める生徒もいた。
- ◇ 参加型の活動自体初めてであり、しかもほぼ初対面の異年齢集団であったが、生徒は楽しそうによく取り組んでいた。



<成果物の例>

### <生徒の感想>

- ・もっともっと世界のことが知りたい、日本がどんなことを支援しているのか知りたい。
- ・世界では食糧を作らせないために現地の人々の体の一部を切断するという残酷なことが起こっていたことを知り、言葉が出ませんでした。自分が知らないこと(無知)って怖いな、と思いました。
- ・関係ないと思うことも、自分に何かしらの影響があるということを知りました。自分が生きていることに幸せを感じる事が、まず自分のできる一歩かな。
- ・自分が得た情報や体験を共有できそうな場で発信することが大事だと思った。世界の状況にアンテナを張ること、身近な人を大切にすることから始めます。(多数)
- ・どこの国の人も同じように「幸せ」を感じる！ことが分かりました。なぜ裕福な国と貧しい国ができたのか、その歴史に興味が出ました。

### <一般の方の感想>

- ・国が貧しくなるには理由があり、人間が原因だったりするのだと知り、悲しくなりました。色んな国、色んな人に関心を持って、可能性を広げていける学生さんが育ってくると素敵だなと思いました。私もその可能性を広げられるような環境を自分のできることで作っていきたくて思いました。
- ・いろんな国で開発支援に携わる人のことが知りたいです。
- ・家族の帰りを笑顔で迎え入れることが大切にしていきたくて思いました。

## 3 使用した教材

<教材1> 事前にとったアンケート

<教材2> エチオピア研修で出会った人々のアンケート

<教材3> 「飢える国、飽食の国」地球データマップ <https://www.youtube.com/watch?v=7R9knZIXH8Q>

## 2 時限目「エチオピアと肯定的に出会う」

### この時限のねらい

- ・自分を見つめ、他者との違いを認め、受け止める→日本を見つめ、他国との違いを受け止める
- ・日本の食卓を振り返り、自給率の低さを知り、他国に頼っている現状を理解し、より良い繋がりを考える。
- ・研修国エチオピアについて肯定的に出会う。
- ・教師の話やクイズや写真からエチオピアを知り、日本との共通点や相違点に気が付く。

### 1 生徒の活動の流れ

- ① 前回までの流れを教師が口頭で復習する。
- ② アイスブレイキング
  - a) 自分について・・・「自分の長所と短所」「好きなおでんの具」
  - b) 他者との違いを認め合う・・・ピンクの付箋「はい」「どちらかというとはい」  
青い付箋「いいえ」「どちらかというといいいえ」を用いて教師からの質問に同時に答え、その理由を手短かに話す  
〔質問例〕 ・私は猫派だ / ・日本はいい国だ / ・制服は要らない / ・自分のことが大好きだ / ・死刑制度に賛成だ など
- ③ みんなが好きなおでんの具(大根・卵・こんにゃく・ウインナー・牛筋・もち巾着・じゃがいも・ちくわ)の日本の自給率を推測させた上で、実際の数字を知る。またそれがどこから来ているのかを考える。  
日本の食糧自給率が低いことを知り、他国にかなりの割合で頼っていること、頼らないでは今の食生活が成り立たないことを理解する。
- ④ 前回の「良い繋がり」を築くことが欠かせないことを確認する。  
その繋がりが、昔より現在の方が目に見えにくくなっていること、生産者やその工程や製品が出来上がるまでの計り知れない人の手がかかっていることに気が付く。昔よりお世話になっている人や手間の数は増えているのでは？感謝の気持ちは反比例していないか？
- ⑤ エチオピアについて知っていることをグループで話す。→クラス全体でイメージをシェアする。【ポップコーン】
- ⑥ エチオピアについて3択クイズを通して楽しく知る。  
〔クイズの例〕  
Q1 エチオピア人と日本人が最初に会ったのは何時代でしょう？〔室町・江戸・明治〕 A 室町  
Q2 10年前エチオピアに行く日本人観光客は年間何人くらいでしょう？〔1000人・2000人・3000人〕 A 約2000  
Q3 エチオピアから多く輸入しているものは次のうちどれでしょう？〔紅茶・緑茶・コーヒー〕 A コーヒー  
Q4 エチオピアで5月5日は何の日でしょう？〔こどもの日・愛国者勝利の日・体育の日〕 A 愛国者勝利の日
- ⑦ エチオピアで撮った写真を通して「これは何でしょうクイズ」  
異文化と楽しく出会う 写真例 ①トイレの水桶 ②歯ブラシ ③蚊帳 ④靴磨き機 など



- ⑧ その他の写真を見て、エチオピアと日本との共通点、相違点を見つける。(約 80 枚)

## ⑨ 感想の記入

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 自分のことを振り返りつつ、その理由を述べるアイスブレイキングでは慣れていないせいか、時間がかかっていた。日頃から、自分の内面を表現する機会の必要性を感じた。
- ◇ 身近に食べている和食でさえ、国際化(×西洋化)が進んでいることを知り、驚き少し残念な様子の生徒もいた。
- ◇ 自給率の低さに驚き、改めて他国への感謝を表す生徒もいた。
- ◇ エチオピア自体の認知度が低く、アフリカ大陸のどこにあるかもよく分からず、想像すらできない様子であったが、3択クイズを通じて興味を持ち始めている様子であった。
- ◇ 「これは何でしょうクイズ」は実際の写真なので、グループ内で色々な意見が出て面白そうに取り組んでいた。
- ◇ エチオピアの写真のスライドを見て、日本とエチオピアの共通点と相違点を書き出す活動では、一人一人が一生懸命に取り組み、グループ内で気づいたことを発表できた。

## 3 使用した教材

<教材4> 日本の食料自給率:農林水産省 [www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/012.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html)

<教材5> エチオピアで撮った写真

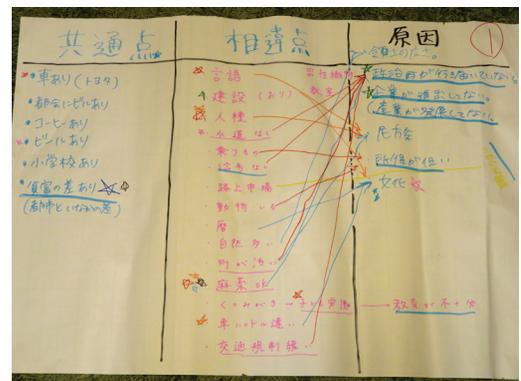
## 3 時限目「『知る』を知る」

## この時限のねらい

- ・できるだけ異年齢の人とたくさん意見を交換する。
- ・エチオピアに肯定的に出会い、日本との共通点、相違点に気が付く
- ・「あってもよい違い」「あってはならない違い」に気付き、「あってはならない違い」の原因を考える。
- ・エチオピアでの体験話を聞き、「知識」を得る機会の重要性＝教育の重要さに気が付き、自分の関心のアンテナを高く張れる人となる。
- ・パラグアイでの「貧困」に対する取り組みを知り、「貧困」について考え、自分の言葉で表すことができる。

## 1 児童生徒の活動の流れ

- ① アイスブレイキング(異年齢を均等にグループ分けするため)  
バースデーラインを作り、グルーピング。言語は使わず、教室内で生年月日の順に並ぶ。  
→実際のコミュニケーションの8割がノンバーバルで伝わっているとされることもあり、言葉だけでなく、表情や服装や状況で人はその場を読み取ることをする生き物であること、言葉を正しく使えば、さらに深く物事を伝えることができること、人には誤解を解いたり、質問したり、する力があることを伝える。
- ② 前回までの学びの復習を教師が口頭で行う。
- ③ 簡単にエチオピアのイメージをグループ内でシェアし、クラス内でもシェアする。
- ④ エチオピアの写真を見て、日本との共通点、相違点を見つける。(約80枚)  
・個人でA4の紙に対比表を書かせ、全てスライドを見終わった後にグループで一枚模造紙に【対比表】を右端1/3を空けて作る。



- ・出来上がった対比表を見て、グループで感想を述べる。
- ・相違点の中に日本との違いの中で「あってよい違い」と「あってはならない違い」があることに気が付く。「あってはならない違い」にアンダーラインを引く。
- ・空けておいた空白部分に、相違点の原因となっているものを書き上げていく。

【因果関係図】ブレインストーミング・出来上がった模造紙を回覧し、「なるほど！」と思ったり、新しい視点があれば、☆印を付けていく。

→肯定的に評価されると人は意欲的に学ぼうとする。

- ⑤ こんな時あなたならどうする？クイズをし、自分の意見をグループ内で話す。

→教師は「エチオピアではね・・・」とエチオピアでの体験を話す。

エチオピアでの私が不思議だなと思った点を、生徒に考えてもらう。

→教師は「実は・・・らしいよ。」とエチオピアでの体験を伝える。

- ⑥ ④⑤を通して、エチオピアの抱える問題が、「国民の知識の欠如=『知る』機会の欠如」であることを認識する。→様々な問題を解決するためにはそもそも「知識」を得る環境が整っていないといけないということに気が付く。

- ⑦ 夢とは何か？

・教師が派遣期間中に会った人たちに問い続けてきた4つの質問を紹介し、自分の夢って何だろう？そもそも「夢」って何だろう？を考える。

・エチオピアで出会った17歳の靴磨きの少年について教師の話聞く。

- ⑧ パラグアイについて、教師からざっくりと基本情報(開発国の一つであること、エチオピアよりは経済力がある国、日本から一番遠い国である・・・etc)を得る。

- ⑨ パラグアイのカテウラ地区で生活する子供たちと地域の問題を解決したいと考えるソーシャルワーカーのファビオさんの話を英語で読みA/Bの役になりきる。

A:カテウラ地区の子供たち 役になりきって「どういう気持ちか？どうしてもらいたいか？」を書き出す。

B:ファビオさん 役になりきって「問題解決のために何ができるか。」を書き出す。

- ⑩ グループで自分の意見をシェアする。

- ⑪ 実際のファビオさんのとった行動を考える。

1つ目：路上生活をしている親子に雨風のしのげる家を作ってあげた。

→一年後様子を見に行くとうなったでしょうか？(A 家の前の路上で暮らしていた)

→モノ(やお金)で人は変わらない。希望がない(hopeless)の状態がホームレスの状態に繋がるとは、と考える人々に生きる希望を与えたいと思うようになる。

2つ目：廃材から楽器を作り、オーケストラをするようになった。

- ⑫ 実際の映像を視聴する。

- ⑬ 教師から次の時代を担う生徒へのメッセージを送る。

- ⑭ 感想の記入。貧困とはいったい何だろう？自分の言葉でまとめてみよう。



#### 滞在中の問いかけ4つ

- ▶あなたにとっての幸せってなんですか？
- ▶夢は何ですか？
- ▶学校で勉強する意味とは何でしょうか？
- ▶自分の宝物は何ですか？

## 2 児童生徒の活動の成果・反応

◇ エチオピアの現状に興味深く耳を傾け、「あってはならない違い」の原因を考えていた。

◇ 海外に興味のある生徒が多い会だったので、積極的に問題解決に向けてどうしていく方がいいのかを話し合っていた。

### ＜生徒の感想＞

- ・貧困はお金がない状態の生活を指すことだと思っていた。でも、スライドにあったように、「生きる力」「希望」「心」がない人のことを示すのかなと思った。未来という希望が貧しいから困る、新しい一歩を踏み出さない、そういうことを貧困というのかなと思った。
- ・自分が当たり前に行っていることができない国があり、生きるのが必死としり、とても罪悪感を感じた。自分の英語力を向上させ、それらの国を学び、自分ができることを探し、役に立ちたいと感じた。
- ・日本人は世界を表面上でしか理解していない。教科書で学ぶ事以外でのことも知るべき。
- ・モノやお金がないことよりも希望や夢がないことの方が悲惨な貧困だと思いました。自分や周りの人の利益のために行動するのではなく、もっと広い視野で物事をみることが大事だと気が付きました。
- ・世界の問題を他人事だとは思わず、自分にできることはないかを考えていけるような人になりたい。

## 3 使用した教材

＜教材6＞ エチオピアで撮った写真

＜教材7＞ English Communication, PROMINENCE I L4 “Landfill Harmonic” Part 1

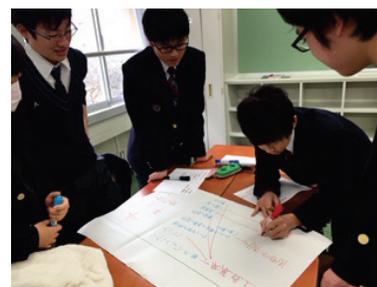
＜教材8＞ Landfill Harmonic

<https://www.youtube.com/watch?v=fXynrsrTKbI>

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

一コマ 90 分という長さで、異年齢の入り混じる初対面同士の時間ということで、アイスブレイキングの時間が重要となる。アイスブレイキングや参加型の授業の概念を理解させるということが、90分生徒が活動的に過ごせられるかどうか、自分の気持ちを素直に表現できるかにかかっていることがよく分かった。一回限りの授業の中で、どうしたら生徒たちの心に残る授業ができるのか、遠い遠い国の話を自分事のように考えられるのか、今後の生活をほんの少しでも世界平和のために変えられるのか(生徒がスモールステップを踏めるか)を考え授業を作ってみた。しかし、どの授業もどちらかというとじっくり考える時間より情報提供の時間の方が多くなってしまったように感じている。限られた時間の中で、伝えたいことを厳選する必要性を痛感した。生徒の感想の中に、現状を引き起こした歴史的背景や日本のサポート体制について興味を持った意見が多く見られたので、開発国と日本との関係や日本の取り組みもこれから紹介していきたいと思っている。教科を超えて、学年を超えて、色んな生徒の様子が見ることができ、授業展開は難しかったものの、改めて学年を超えて意見を交わせた時間が持てて生徒にとっても私にとっても貴重な時間となった。もっともっと世界のことを勉強しなくては！と思った。



### 2 参考文献・資料

- 1) 2016 年度 教師海外研修「パラグアイ・エチオピア」報告書 JICA 中部